

JENESYS2017 招へいプログラム第 21 陣の記録
テーマ：(社会) 平和構築交流
対象国：ASEAN10 か国及びインド，東ティモール

プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2017」の一環として、ASEAN10 か国及びインド、東ティモールより大学生 96 名が 2018 年 3 月 18 日～27 日の日程で訪日し、「平和構築」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、長崎市を訪問し、被爆者の講話、平和公園と原爆資料館の視察を通し、平和の尊さを学びました。また長崎大学での交流では、折り紙体験、4 つのテーマ毎に日本人学生とディスカッションを行い、友情を深めあうことができました。

また、日本人との交流を通して日本についての理解を深め、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加国・人数】

96 名（インド 8 名，インドネシア 8 名，カンボジア 8 名，シンガポール 8 名，タイ 8 名，東ティモール 8 名，フィリピン 8 名，ブルネイ 8 名，ベトナム 8 名，マレーシア 8 名，ミャンマー 8 名，ラオス 8 名 ※50 音順）

【訪問地】

東京都，長崎県

2. 日程

- 3 月 18 日（日）/3 月 19 日（月）羽田/成田空港より入国
- 3 月 19 日（月） 【オリエンテーション 1】
- 3 月 20 日（火） 【オリエンテーション 2】
長崎県へ移動
【ディスカッション】
- 3 月 21 日（水） 【日本理解講義／基調講演】 ASEAN 事務局
【ディスカッション】 各 4G に分かれて分科会
【テーマ関連講義】 被爆者講話聴講
【テーマ関連施設視察】 平和公園，長崎原爆資料館
- 3 月 22 日（木） 【学校交流】 長崎大学教育学部
【ディスカッション】
- 3 月 23 日（金） 【文化体験】 茶道体験・折り紙体験
【歴史的建造物等視察】 武家屋敷・大村城視察・着付け体験

- 【地域概要講義】長崎市役所
 【ディスカッション】
- 3月24日(土) 【テーマ関連施設視察】長崎視察（出島，浦上天主堂，グラバー園など）
 【ディスカッション】
- 3月25日(日) 東京へ移動
 【ワークショップ】
- 3月26日(月) 【パネルディスカッション】
 【最先端技術視察】日本科学未来館
 【ワークショップ】パネルディスカッション
- 3月27日(火) 【報告会】
 【都内視察】
- 3月27日(火) / 3月28日(水) 羽田/成田空港より出国

3. プログラム記録写真

	
<p>3/20 【オリエンテーション2】</p>	<p>3/21 【テーマ関連施設視察】平和公園</p>
	
<p>3/23 【歴史的建造物等視察】着付け体験</p>	<p>3/23 【ディスカッション】</p>
	
<p>3/24 【テーマ関連施設視察】長崎視察</p>	<p>3/26 【パネルディスカッション】</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ インド，学生

時間を守る文化，従業員を大切に思うこと，忠誠心，確固とした決意，そして地域に対する思いやりに深く感銘を受けました。社会の過激な事柄によりもたらされる苦痛や悲しみを軽減しつつ，平和のメッセージを広めるボランティア精神や努力は大きな学びとなりました。日本の高い生活水準は，日本国民の長年の努力と相互理解の賜物です。経済，社会そして政治面で発展途上にある私達は，日本の事例から学ぶべきです。このプログラムで様々なテーマについての違った意見を言い合うことができました。このような話合いや交流は，増々グローバル化が進む世界にとって非常に重要です。JENESYSは希望や可能性を秘めた新しい世界の扉を開きました。ASEAN 諸国の一員として持続可能な発展を遂げるよう邁進し，世界の国々と共に力を合わせていきたいと思えます。

◆ インドネシア，学生

来日する前は，日本人は個人主義で他人に配慮しない国民だと思っていました。しかし，空港へ降り立った瞬間に私の持っていた印象は変わりました。日本人は時間に厳しいこと，そして目上の人を敬うことなど，国民性について多くのことを学びました。この学びにより，私自身は更に礼儀正しく，他の人を思いやるようになりました。長崎は，1945年の暗黒な時を迎えたにも関わらず，豊かな都市に生まれ変わったことに私は深く感銘を受けました。再び活気を取り戻すのに1世紀はかかりませんでした。もちろん，人々の献身的な努力無しではこのような変化を遂げることはできません。日本人の勤労の倫理を私自身も取り入れたいと思えます。私は，このプログラムで多くの場所を訪れ，日本文化を理解することができてよかったです。全てを肯定的に捉え，日本のように素晴らしい国になれるよう知り合い全てに，日本の真価を伝えて行きます！

◆ カンボジア，学生

今回のプログラムは，ASEAN 各国から集まった若者達のコネクションを広めるにとどまらず，多くの経験を積めました。原爆に関する講話は特に印象的で，平和構築の方法を理解でき，自分の国でも平和を広めようと思いました。また，長崎大学との交流は，日本人学生とも友好を広めることができ，とても素晴らしい体験でした。私達は問題解決のために共に学び，討論しあうことができました。JENESYS プログラムに参加したことで，多くの事を学び，多くの人と友情を深めることができ，とても感謝しています。

◆ シンガポール，学生

ASEAN 事務局の講義では教育について触れ，教育は私達のグループで話し合った大きなテーマの内の一つであることを感じました。私は，教育がどのように開発途上国の発展の助けになるか，そしてその開発プロジェクトに私自身が果たす役割について関心を持っています。長崎大学を訪問して学生と討論しましたが，日本の経済と教育制度について見識を深めました。次回からは，全行程に日本人の学生を同行させてもらえるともっと良いと思いました。平和公園では年配の市民の方々がガイドをして下さいました。私は，日本の高齢者がとても元気に仕事をしていることに驚きました。

◆ タイ, 学生

被爆者講和の中で最も印象に残ったのは、このような状況に置かれた人々から生の情報を得られたことです。その方々のお気持ちを理解する機会を与えてくださったことに感謝します。学校交流では私たちの情報や意見を交換し、問題解決の道を探る機会となりました。長崎の歴史や視察で自国の問題だけでなく世界の問題へと目が向き、平和構築に向けて何かをしなければならぬことを実感しました。平和を築くことで世界はより良くなると思います。戦争がもたらす状況、原爆が人々に癒えることのない心の傷を残すことを知った私たちが、二度と戦争が起こらないように声を上げる時だと思います。

◆ 東ティモール, 学生

このプログラムに対する印象／意見では、まず大学での交流を上げたいと思います。長崎大学の学生とは本プログラムで学んだことについて意見の交換を行いました。又歴史や先端技術についても情報共有をしました。このプログラムでは原爆資料館館長のお話に感謝しています。その講義では、分かり易く原爆の歴史が説明されました。世界平和と個人の自由を世界で築くために多くを学ぶことができました。さらに、プログラムの視察場所では伝統的な日本を学び、多くの経験を得ることができました。人々はとても礼儀正しいと思います。ASEAN の将来の若い世代として感謝申し上げるとともに JENESYS プログラムで経験したことを通して、より良い ASEAN の将来の為に貢献したいと思います。

◆ フィリピン, 学生

日本人はとても礼儀正しく、おもてなしの心があることに感銘を受けました。プログラム通じて出会った人達は、全員、そのような人達でした。日本人は助け合いの精神があり、お互いに尊敬しあっている点もすごいと思いました。時間をしっかり守り、一生懸命に働く姿も印象的でした。とても安全な国で、交通ルールも良く守られていました。今回のプログラムは、私の人生を変える経験となりました。また日本に戻ってきて、日本人ともっと知り合い、個性的な文化と伝統をもっと体験したいと思います。

◆ ブルネイ, 学生

日本人はとても親切で誠実な国民です。私はグラバー園に行ったときに、財布を入れたバッグを失くしてしまいました。困り果て、打ちひしがれていたのですが、園内のアイスクリーム屋さんに誰かが届けてくれて、取り置きしておいてくれました。その体験を通じて、日本人の規律を守り、とてもマナーが良い国民性に感銘を受けました。

◆ ベトナム, 学生

1945 年の長崎の原爆については教科書や新聞で学んでいましたが、このような凄まじい恐怖の瞬間を生き抜いた人たちがどう感じていたか、どんな体験を強いられたのかということは一度も考えたことはありませんでした。しかし、私は幸運にも JENESYS 平和構築プログラムを通じて来日することが叶い、実際に被爆者の方の感動的で力強い体験を聞くことができました。そして私たち全員が原爆の被害の凄まじい規模と影響を知

り、衝撃を受けたのです。さらに、私にとって最も感動的だったのは、グループで爆心地に立った時でした。お辞儀をして多くの亡くなられた被害者の方々に敬意を払いました。まさに 73 年前にここに原爆が落とされ、市が灰と化し倒壊したビルだけが残されました。しかし今では、その同じ場所が美しい平和公園となっているという事実が、私に平和の重要性について気づかせてくれました。

◆ マレーシア, 学生

長崎大学の学生たちとの交流で新たな発見がありました。人と人との絆に最も重きを置かなければ、国と国との関係など意味を成さないということです。私は JENESYS での体験を通じ、ここ日本で思いもかけなかった特別な絆を様々な国の人たちと友人になることで築きました。そして私自身が持っていた多くの偏見を変えることが出来たのです。そのため、もし私たちが一致団結できる共通点を見つけることが出来たなら、平和構築維持に向けて、互いの相違点に寛容になり、解決に導くことが出来ると信じております。

◆ ミャンマー, 学生

講師の方々がすすんで自分たちの体験を私たちと共有してくれたのが印象的でした。また、講師の方々は核兵器の悪い点と共に、現在何の活動をしているかを教えてくれました。学校での交流では、私たちが学校に着くなり、学生から温かい歓迎を受けました。また、学生のプレゼンテーションや折り紙（鶴）の指導を受け、私たちは文化、知的活動に触れる豊かな時間を過ごしました。訪問した場所については、まず原爆資料館と平和公園を上げたいと思います。これらの場所は原爆の悪い点と平和の重要性に光をあてていると思います。平和を象徴する意味のあるそれぞれの建造物を深く視察しました。東京、大村、長崎などは息をのむ美しさでした。出島、グラバー園、梶山城、旧楠本正隆屋敷で日本文化に接する機会を得られたことは幸運でした。最後に未来館の”ロボットダンス“(アシモショー)は印象に残りました。訪日団とのディスカッションでは数々の忘れがたい経験をしました。異なる国からの訪日団が自分の国についてだけでなく社会平和について活発な意見交換に参加する姿勢に感動しました。この JENESYS プログラムを通じて若者が世界の平和構築に対して顕著な役割を果たすことを希望します。

◆ ラオス, 学生

プログラムの中で、最も印象に残ったのがいくつかありました。特に被爆者講話、歴史的な場所、学校交流、そして仲間たちやコーディネーターと知り合ったことでした。特に ASEAN の講義からは、三つの柱、ASEAN 共同体のゴール、ASEAN の結びつきなど、新しい知識として学ぶことができました。自分の国に帰ってから、勉強に役に立つと思います。長崎の歴史については、来日前によりは理解できるようになりました。原爆で、人生の目的の多くを失いながらも、長崎の人々が平和を達成するまでどんなに大変な苦勞をしたかを理解できました。しかも、平和を達成するためには、自分が自ら動かなければならないことがわかりました。二つ目は、歴史的な場所を訪問したことです。そこで、自分が知らなかったことを学び、問題を解決するヒントを学んだ気がします。

5. 受入れ側の感想


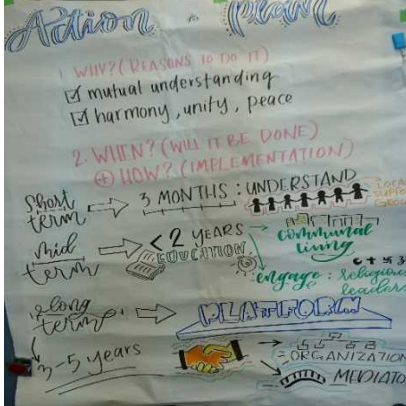
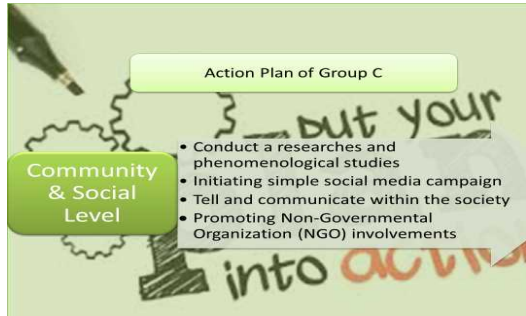
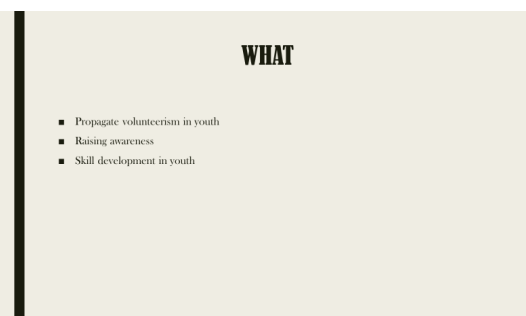
◆ 学校交流受入れ担当者

訪日団受入れは、本学の学生にとって非常に良い刺激となりました。交流会に参加した学生からは、今後更に英語力に磨きをかけ、グローバル社会に適応できるようなスキルを身に着けたい、との意見が多く寄せられました。また、当日訪問学生に長崎市内を案内し学生自身で交流を深める場面も見受けられ、国際交流に対する意識が深まったようでありました。加えて、今回のディスカッションに参加したことは、異文化の学生が様々な問題についてどのように考えるのかを知る大変貴重な経験となりました。

6. 参加者の対外発信

	
<p>(グループ A) プログラムについての発信 (Instagram)</p> <p>国の異なるこの二人が日本においてそれぞれの国を代表している以外に多くの共通点を持っていることを発見するとは誰が予想しただろう。私の新たな友人インドのシュエシャと私が体験した文化交流は思いがけないものだった。3/27に発表する「紛争回避のために若者ができること」に関して行動宣言を作成した。</p>	<p>(グループ B) 報告会についての発信 (Facebook)</p> <p>最後のディスカッション、最後のプレゼント、最後のパーティ、しかし、我々の友情は決して最後ではない。</p>
	
<p>(グループ C) 平和についての発信 (Facebook)</p> <p>戦争も平和も人間がもたらすもの。</p>	<p>(グループ D) プログラムについて (Facebook)</p> <p>ASEAN 事務局がファシリテーターとなって面白いワークショップを行った。その後、原爆被害者の経験を聞いた。参加者全員にとってとても参考になる活動だった。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

 <p>2. Action Plan</p> <ul style="list-style-type: none"> Promote Japan's good values <ol style="list-style-type: none"> 1. Share our Jenesys story on SNS 2. Organize Japan Culture Videos Contest to get more people share more about Japan culture Preserve culture like Japan <ol style="list-style-type: none"> 3. Start tradition preservation clubs at university to teach traditional crafts class to children Promote peace <ol style="list-style-type: none"> 4. Share about peace 5. Cultural exchange: become host, tour guide to SEA youths 6. Promote and Volunteer in peace-making NGO 	
<p>アクション・プランの発表 1(グループ A)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①JENESYS の体験談を SNS に掲載する。 ②日本文化ビデオコンテストを運営し、日本文化へより多くの参加者を集める。また、日本のように文化を保存する。 ③大学で伝統文化保存クラブを設立し、伝統工芸を子供たちに教える。 ④平和の推進、平和について共有する。 ⑤文化交流：SEA の若者のホスト役を務め、ツアーガイドになる。 ⑥平和創出の NGO でボランティア活動の推進。 	<p>アクション・プランの発表 2(グループ B)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①参加した一人一人のフェイスブックやインスタグラムを用いて、日本で学んだことを写真付きで掲載する。 ②若者達で私たちが経験し、学んだことを若者の間で、共有し、サポートグループを作る。 ③政策を作成する上でのアドバイザーとなる。
 <p>Action Plan of Group C</p> <ul style="list-style-type: none"> Community & Social Level <ul style="list-style-type: none"> • Conduct a researches and phenomenological studies • Initiating simple social media campaign • Tell and communicate within the society • Promoting Non-Governmental Organization (NGO) involvements 	 <p>WHAT</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Propagate volunteerism in youth ■ Raising awareness ■ Skill development in youth
<p>アクション・プランの発表 3(グループ C)</p> <p>個人レベルでの活動</p> <ol style="list-style-type: none"> ①世界の安定を維持する。 ②理解し、受け入れること。 ③SNS を通じて平和構築を提唱する。 ④経験について記事を書く。 <p>地域及び社会での活動</p> <ol style="list-style-type: none"> ①研究の実施や現象の調査を行う。 ②SNS にて平和へのキャンペーンを実施。 ③地域社会の中で情報を共有する。 ④NGO 団体の参加を呼び掛ける。 	<p>アクション・プランの発表 4(グループ D)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ボランティア精神を若者に普及させる。 ②意識改革 ③青年の技能開発